



高志台

学園だより

高志台（こうしだい）

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“こしのくに”（越の国・古志の国・高志の国）と呼ばれていました。
学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校のある台地を「高志台（こうしだい）」と命名しました。

CONTENTS

卒業生・修了生に贈る言葉	02-03
さよなら高志台 思い出のアルバム	04
さよなら高志台（卒業生）	05-09
さよなら高志台（専攻科修了生）	10-11
さよなら高志台（留学生）	12-13
さよなら高志台（退職する教職員）	13-14
卒業生・修了生表彰・進路状況	15
PICK UP 2019 TOPICS	16



独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Nagaoka College

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈る言葉



卒業・修了を祝して

校長 竹茂 求

長岡工業高等専門学校を卒業・修了される皆さん、おめでとう。第五十四期卒業生と第十九期修了生の門出にあたり、皆さんに心からお祝いを申し上げます。高専生活では躓きや悩みもあったと思

いますが、それらを乗り越えてこの日を迎えられた皆さんに敬意を表します。また、長きにわたりご支援を賜りました保護者ならびに関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

今年度、準学士課程を卒業するのは、機械工学科35名、電気電子システム工学科40名、電子制御工学科38名、物質工学科34名、環境都市工学科40名の合計187名です。卒業生にはモンゴル、ベトナム、タイ、マレーシアからの留学生6名が含まれています。専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻20名、物質工学専攻6名、環境都市工学専攻9名の合計35名です。

この門出にあたり、皆さんの社会での活躍を祈念してエールを送ります。高専で十分に力を発揮された皆さんは社会でもその調子で進んでください。また、高専での成果に満足していない人もいるでしょうが心配することはありません。皆さんは卒業して社会にでると、例外なく、同年代の人と比べて圧倒的な専門知識や技術が身に付いていることを直ぐに実感されるはずです。理解できていないことや覚えていないこともあるでしょうが、必要になったらじっくり勉強すれば良いのです。焦ることはありません。

さて、高専ができて60年近くたった今日、人工知能やIoTなどの台頭で産業界は人類が経験したことがない変革を迎えています。例えば技術開発は、ある技術を高度化する従来の研究開発に対して、今日では既存の様々な技術を組み合わせて新しい価値を創造する複合融合型の開発が主流とされています。生活を一変させたiPadやスマホの開発が好例です。技術開発に必要な部品を自分で作れる画期的な3Dプリンターや、作ったものを制御するコンピュータや通信技術も今は巷に溢れています。アイデアを出し合って協力すれば無限の可能性に挑戦できる夢のような時代が到来しています。

今、そのような世界に旅立つ皆さんにとって、人工知能の研究者でもある東京大学の松尾豊先生のエールは、あらためて心強く響くでしょう。松尾豊先生は、イノベーションに求められる素養と高専の教育が一致していること、そしてこの日のために高専があると言っても良い、高専生は日本の宝だ、と皆さんの実践的能力を絶賛しています。

このような時代の技術開発では、色々な専門家と協力し

て仕事を進める能力が重要です。ひとつエピソードを紹介しましょう。長岡高専では多くの学生が様々なことに取り組んでいます。地域企業の技術的課題に取り組むJSCOOPもそのひとつです。その様子を視察しに来校した政府の関係者の言葉がとても印象的でした。それは、専門や学科が異なる学生達がお互いを尊重して取り組んでいることが素晴らしいという感想です。皆さんはこれから多様な経歴の人と一緒に仕事をし、近い将来そのリーダーとして期待されるでしょう。チームには技術者ではない人もいます。皆さんは、自分の技術力を発揮する事と共に、チームの多様な人々の能力を活かす事の重要性を理解してください。簡単なことではありませんが、高専で様々なことを経験した皆さんにはその資質があるはずです。

興味深いデータを紹介します。平成26年に、高専の卒業生を対象にアンケートが実施されました。卒業後の収入、地位、仕事の満足度といった社会的評価について、高専在学時代の何が重要であったかを調査したのです。その結果、在学時代の友人満足度とものづくり能力が学業成績と同じ程度に卒業後の社会的評価と相関がありました。つまり、成績が悪くても仲間がいれば、孤独であってもものづくりに打ち込めば、ものづくりが不得意でも成績が良ければ、と高専は三段構えで良い職業的キャリアへの道を開いているのです。挫折を乗り越えた経験も大きな財産でしょう。皆さんが高専生活で熱心に取り組んだ様々なことを礎にして、社会でいっそう自己研磨されることを期待します。

最後に、もう一つ大事なことをお話します。高専に入学するのは同一年齢人口のわずか1%です。しかし、大学の工学部を含む高等教育を受けた技術者の10人に1人が高専の卒業生です。皆さんはこれから高専卒業生が国内外で大活躍していることを知り、心強く誇りに思うでしょう。またその繋がりが大きな財産であることを実感されるはずです。

私たち教職員は、皆さんの人生の最も大切な成長の時を共に過し、喜びや苦労を分かち合えたことに心から感謝しています。これからの社会は、誰も想像できない未知の世界ですが、それだけ大きな可能性があります。卒業、修了される皆さんが、その最先端で活躍されることを、校長をはじめ、教職員は信じて疑いません。皆さんの活躍は、長岡高専の関係者全ての喜びであり誇りです。皆さんのご活躍を心から願っています。



高専生が脚光を浴びる時代に！

後援会長 小林 義明

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。そして、今日まで温かく見守ってこられた保護者の皆様へ心よりお祝い申し上げます。また、竹茂校長をはじめ諸先生方、職員の皆様の熱意あふれるご指導により卒業・修了できたことを心より感謝申し上げます。

入学時は、校則らしい校則もなく、いきなりの大人扱い、見たことない顔ぶれと、長い90分授業、赤点のハードルも高く、卒業なんて全く想像できず、「あ～高専でよかったのかな？」と不安に思ったこともあったかもしれません。そこからの5年間（7年間）で立派に成長し、見事に高専に染まった皆さんを遅しく思います。

令和初の卒業生として、あなた方が羽ばたいていく社会は、今までと違うSociety 5.0と言われる新しい未来社会です。先日にもトヨタ自動車が、あらゆるモノやサービスがつながる実証都市、「コネクティッド・シティ」プロジェクトの計画を発表し、もう少し先と思っていた未来社会が、一気に現実味を帯びてきました。いったいどんな時代になるのでしょうか？

予測が難しいと言われる時代ですが、皆さんにとっては色んな可能性が広がる、高専生が脚光を浴びる時代になると信じています。何故なら、そうなることを目標にした、実践的な教育を皆さんが受けてきたからです。

AI（人工知能）の技術進歩により、今後、私たちの働き方が変わり、それによって求められる能力も変わってくると言われています。「自分の頭で考え、課題を見つけ、解決策を創造できる力」、「いろんな仲間と力を合わせ、上手く協働作業できる力」、「多くの人を巻き込み、引っ張っていくリーダーシップ」などの能力です。

ここで、高専時代を振り返ってみませんか、この必要と言われる能力と、自分達のやらせてもらってきたことで、何か気づきませんか？高専の基本である実験・実習に卒研、JSCOOP（ジェイスkoop）や、プレラボなどの工夫を凝らした次世代教育、また、活発な国際交流など、どれもその能力を育むための大切な経験になっていると思います。どこへ導くか明確な目標の下、綿密に計算された教育が、皆さんの土台を築いてくれたはず。ここが技術者としてのスタートラインです！

高専プライドを胸に、自信とお世話になった方々への感謝の心をもって、次のステージでも頑張ってください。皆様のご活躍を心からご祈念申し上げます。

最後になりましたが保護者の皆様には、後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。



令和の時代に活躍する

同窓会長 古田島 智裕

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとう。皆さんは令和初の卒業・修了生となります。平年から令和に元号が変わったからといって、突然何が変わるというものではありませんが、確実に時代は変化しています。

平成終盤、ノーベル賞受賞者は日本出身者を含めると6年連続で受賞者が出ています。東京モーターショーでは、現実的な車のないブースが出現しました。そして、4K/8Kカメラ・ソフトの充実や移動通信システム5Gの開始など、ものすごいスピードで新たな技術が開発されています。これらの技術により、ビッグデータやIoTの活用が進み、より簡単で便利な生活が実現されていくでしょう。自動車の自動運転が実現するなんて、自分が生きているうちには無理だと思っていました。そのような中で生きていく皆さんは何をどうしますか？

長岡高専の教育理念は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成」です。企業に就職するにしても、研究を続けるにしても、「人類の未来をきりひらく」ことは容易ではありません。特に、企業

活動の中でこれを実現するためには、周りの環境・理解が必要不可欠です。自分自身もそのような考えを持ち続けていないと実現できませんが、実現した人達がいることも事実です。夢をあきらめないことが重要です。

話は変わりますが、2018年度都道府県別の新設法人率は新潟県が最下位だったそうです。県知事の重点施策の一つは「起業・創業の推進」だそうですが、人口流出や高齢化を背景に、県内経済の活力低下が懸念されているそうです。15歳人口の1%という少数派の高専生は、「実際に手を動かして課題に取り組みチームワークで失敗を乗り越える。起業に向いている。」と言われ、実際起業家が多いと聞いています。夢を実現するための一つの選択肢として、県内での起業もありかもしれません。ただし、企業に就職したら実現不可能だと言っているわけではありません。事実、卒業生の中には、企業において素晴らしい製品開発をした人もいます。が、「人類の未来をきりひらく」前に、「自分の未来をきりひらく」必要があるので、慎重に考える必要があるでしょう。

最後に、同窓会は「会員相互の親睦を図ると共に工業の発展に寄与すること」を目的としています。皆さんを含めた会員の皆様といつでも情報交換が出来る・している、そんな同窓会になりたいと思っていますので、今後とも長いお付き合いをお願いします。

さよなら高志台 思い出のアルバム

2015-2019

2015.4.6 入学式



本科1年生211名、3・4年編入生9名、専攻科生30名、総勢250名が新たに本校の一員に加わりました。

2015

- 3月 北陸新幹線開業
- 6月 改正公職選挙法成立
- 8月 戦後70年
- 9月 安全保障関連法成立
- 10月 マイナンバー制度施行
TPP大筋合意
- 11月 パリ同時多発テロ
- 12月 113番元素の命名権を獲得
- 1月 大相撲初場所で琴奨菊が
日本人力士として10年ぶりの優勝

2016

- 3月 北海道新幹線開業
- 5月 伊勢志摩サミット
- 8月 リオデジャネイロオリンピックで過去最高の41個のメダルを獲得

2017

- 10月 大隅氏にノーベル医学生理学賞
- 1月 アメリカ大統領にトランプ氏が就任
- 2月 プレミアムフライデー初実施
- 4月 世界フィギュアで羽生が世界最高得点で優勝
フィギュア女子の浅田真央が引退
- 6月 天皇退位特例法が成立
上野動物園でパンダ誕生
14歳棋士の藤井4段が29連勝の新記録

2018

- 10月 衆議院選で自民が圧勝し、立憲民主が野党第1党に
- 11月 TPPが米国抜きで大筋合意
- 1月 築地市場最後の初競り
箱根駅伝で青学大4連覇
- 2月 平昌五輪でスピードスケート女子の小平、高木菜らが金メダル
- 6月 史上初の米朝首脳会談
- 7月 サッカーW杯で日本16強
- 9月 北海道地震
自民総裁選で安倍首相が3選

2019

- 10月 本庶佑氏にノーベル医学生理学賞
- 1月 大坂、全豪テニス初制覇
- 3月 イチロー引退、日米通算4367安打
- 5月 「令和」に改元
- 7月 はやぶさ2「りゅうぐう」に2回目着陸
- 10月 消費税10%スタート
吉野彰氏にノーベル化学賞
ラグビーW杯で日本代表8強入り
首里城火災



2015.4.9~10 1学年合宿研修



2016.4.7 始業式



2017.6.22 3学年選挙出前講座



2017.11.3~5 学園祭「高志祭」

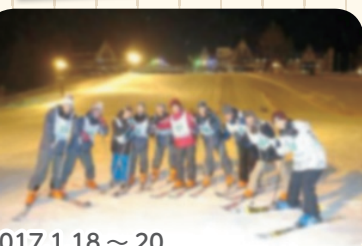


2018.12.12 クラスマッチ



2020.1.30~31 卒業研究発表会

2015.5.14 遠足



2017.1.18~20
2学年スキー合宿研修



2017.9.27 3学年工場見学



2018.9.26~29 4学年見学旅行



2019.12.17 文化祭「紡年会」



Stay GOLD
江添 航

高専生活を振り返ると、「決して楽ではなかった」と表現するべきだと思います。なぜなら、この5年間はあまりにも、楽しいこと、苦しいことで溢れかえっていて、とても忙しかったからです。

ようやく通える長岡高専、初めて触る工作機械、高専だけのイベント、中学校より難しくなった数学などの一般科目の勉強には苦労しましたが、日常生活のすべてが新しく、身の回りが輝いて見えました。

私は、3年生の時、専門科目に大きく躓きました。勉強のインプットとアウトプットが上手くできず、どうして他人にできて自分にできないのかと自分を責めて、長い間、酷く息がづらかったです。そんな私が、5年生までやってこられたのは先生や友人、家族といった周りの人から支えてもらって、地道に進むことができたからです。勉強だけでなく、教科書に載っていないことも教えてもらい人間としても大きく成長できたと思います。

今日まで、いろんな人に支えてもらい努力して、四苦八苦して、ときには別の道を行く人を見て、そうして人と技術を育てる学校で過ごした思い出は、紛れもなく、黄金色の青春でした。

教職員をはじめとする皆様、そして長岡高専、長い間お世話になりました。



5年間ありがとうございました。
酒井 啓伍

自分は、入学した時第一希望の高校へいけなかったことから高専でやっていける自信はありませんでした。そんな時、青柳先生が私に「とりあえず5年間通う中でやりたいことや自分の興味あることをみつけていけばいいと思うよ」そう答えてくれました。その言葉を信じて、高専生活を過ごして行く中で、たくさんの友達ができました。学年が上がるにつれて勉強が難しくなり大変苦労した自分が何事もなく卒業できたことは、私にわからない所を分かるようになるまで教えてくれ、日ごろの課題を一緒に取り組んで助けてくれた友達のおかげだと思っています。自転車や車等が好きなになったのも高専で出会った友達のおかげです。とても感謝しています。

また、担任の池田先生を含め、高専の先生方は悩んでいる時、授業の内容がわからない時に丁寧に教えて頂きました。大変お世話になりました。

高専で学んだことは私生活でもとても役立っているので、本当に高専生として機械工学科の学生として過ごせたことを心から嬉しく思います。友達、先生方5年間ありがとうございました。



誠実さを武器に成長を
3～5学年クラス担任 池田 富士雄

卒業おめでとうございます！

私が担任をしていた3年間、多くの先生方から皆さんの授業での様子や普段の印象を聞くたびに、いつも嬉しく誇らしい気持ちになりました。なぜかという、表現の違いはありますが一様に「良いね!」といった好印象の言葉をいただくからです。私自身が褒められたわけではないですが、とても嬉しいものでした。ちなみに成績が良くて褒められたわけではなく(^-^);、全て皆さんの「誠実さ」があつての授業・生活態度を褒める言葉であつたと思います。これまでは主に試験の成績＝学力によって評価されてきたと思います（もちろん我々教員も皆さんの学力を上げることを主目標にしています）が、これから社会で働いたり、進学して研究活動したりする際にはもっと大事なことがあります。それは「学び続ける姿勢」と「試行回数」です。仕事で必要な技術や研究に関わる知識を自ら学び続け、とにかくやってみる試行回数を増やすこと、これが成長への道だと私は思います。そしてやり続けるのに「誠実さ」は大きな武器になります。これからも共に成長し続けましょう。



気配り、目配り、体さばき
2学年クラス担任 桐生 拓

卒業おめでとうございます。2年生の最初に「気配り、目配り、体さばき」を身に着けてほしいと話をしました。これまでの5年間、部活動・寮生活・体育祭・文化祭、また何気ないやり取りで皆さんの様々な「気配り、目配り、体さばき」を見せてもらいました。20代で初めての担任だった私にとって、皆さんの優秀さは驚きの連続であり、担任として誇りに感じていました。皆さんは私の未熟な部分をカバーしつつ大いに活躍してくれました。

さて、皆さんはこれまでの経験や思い出を糧に今後はそれぞれのフィールドに旅立ちます。きっと高専時代を思い出し懐かしく思うことがあります。それでもあの時は良かったな、オアシスだったな、と逃げようようなことは絶対に考えず、常に楽しく充実した人生を今後も送ってください。皆さんと再び会うときに恥ずかしくないよう私も頑張りながら、皆さんの活躍を楽しみにしています。卒業おめでとう。5年間ありがとう。





感謝
櫻井 康貴

私は4年次から、クラス委員を務めさせて頂きました。しかし、経験豊富な高橋君に甘えて、クラス委員としての仕事は、ほとんど任せっきりでした。そんな私でも密に行っていたことがありました。それは、教室の掃除です。私は5年間、この校舎で生活してきて、様々な経験をさせてもらいました。そんな経験を与えてくれた校舎に、今までありがとうと感謝の気持ちを込めて掃除をしてきました。

感謝をしているのは、校舎だけではなく、高専生活を共にしてきた、クラスメイトにも大きな感謝をしています。人によって仲の良さに差はあれど、大変だったテストやレポートを乗り越えてきた仲間ということは同じです。そんなクラスメイトに、たくさん助けられたという感謝と共に、戦友のような感覚を感じています。

この先、みんなバラバラの道を歩むことになってしまいます。その中で、私は勝手に、それぞれの充実した人生を歩んでいってほしいなと思っています。また次に会った時に、胸を張って近況報告できるように。みんなに負けずに。そんな気持ちでこれからも頑張りたいと思います。



電気科らしく
高橋 勇希

私は石川県の生まれで育ちは新潟市、長岡高専に入学するまで縁もゆかりも無い長岡に親元を離れやってきました。入学式後、寮にて指導寮生や同期の1年生たちと自己紹介をしたときでした、なんとか周りに覚えてもらおうと思った私は「中学生のときのあだ名はサンズリバーでした」と言い放ちました。

それを機に私は5年間「さんず」と呼ばれ続けるのでした。

私達のクラスは困ったもので、イベント、行事の出席率がどの学年のどのクラスよりも低く、体育祭などで他の学年の足を引っ張ってしまうようなクラスだったかと思います。しかしながらクラスマッチや学園祭のクラス企画などになると途端に1位や2位などを持ってくる。電気科らしく面白いクラスでした。

私の思う電気科は「やるときにはやるけどやらないときは本当に何もしない」、これから就職や進学、道はバラバラですが卒業しても電気科らしく頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、今後とも変わらないお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。



贈りたい言葉
3～5学年クラス担任 矢野 昌平

私も変わり者だと言われるけれど、君たちも負けず劣らずで、EE5は変わり者が集まったクラスだったと思います。良く言うところ「いろいろどき」悪く言うところ「バラバラ」。しかし、それも皆さんの個性であって、一生懸命考えて各自が自我を確立しようとしていたのだと思います。

個性あふれるみなさんに、同じ言葉を贈るのは少し変な話かもしれませんが、でも私自身、自分を見直す良いきっかけとなった言葉を贈ります。それは、長岡技術科学大学前学長の新原先生に言われた言葉で、「人を嫌いにならない」ということ。この言葉は、感情論ではなく、人に対して見えているのは氷山の一角でその下にあるその人の価値観や思いは簡単には理解できない。見ようとしなくてあきらめてしまえば、せっかくの機会を逃してしまう。そんな意味を含んだ奥の深い言葉です。これは、私の解釈ですが皆さんの解釈を付け加えてほしい。そして、ぜひ実践してほしい。あるいは悩んだ時に、思い起こしてほしいと願います。卒業おめでとうございます。これからの皆さんの希望の門出に幸多かれ。



新たな出発を祝して
2学年クラス担任 小川 秀

混合学級から学科別クラスとなった2016年4月、正門脇の桜の下で一緒に撮ったEE2クラス写真があります。笑顔とともに不安の見え隠れする表情と開花した桜が対比される、そんな1枚です。個性的な面々の集まったEE2での1年間はあっという間でしたが、数々の記憶の中でも印象深いのは、学業や学校生活に悩みながら、試行錯誤を重ねながら奮闘していた皆さんの姿です。5年生になってからは卒業研究を語る様子や学校行事で活躍する姿に成長を感じつつ、2年生当時の光景を重ね合せていました。さて、めでたく卒業を迎えた皆さん、この機に入学当初の自らにしばし遡ってみてはいかがでしょう。楽しい事だけでなく、乗り越えた数々の戸惑いや苦難なども懐かしく蘇ってくるはずですよ。「失敗こそ最高の師」(映画スターウォーズより)という言葉もあります。負のイメージの経験も成功体験と同じように人生を支えてくれるものです。これから正に人生の最盛期。今日までのそして明日からの出会いを大切にしつつ、それぞれの人生を謳歌して欲しいと願っています。卒業おめでとう！





最高の5年間 関 凌大

この長岡高専という、高校とは違う特別な学校に入学し、集まる人たちも多様な環境で多くのことを体験してきました。

あっという間だった高専生活を振り返ってみると、個性豊かな人達と送った寮生活や、長期休暇も毎日通った柔道部、大きく体調を崩したメキシコ海外派遣研修、バスが事故に巻き込まれた研修旅行など、とても“濃い”思い出でいっぱいです。中でもクラスで話し合いをしていないのに、いつのまにか自分が体育祭の制御団長になっていたなんてことはこの学校に入らなければ経験できなかったことだと思います。

楽しかったこともあれば大きな壁（課題、試験、留年）が立ちちはだかることもありました。その度に、努力し、仲間と協力して乗り越えて自身の成長に繋がりました。

春からは社会人として働くので、長岡高専で送った日々が最後の学生生活となるのですが、悔いの残らないようなラストを飾るに相応しい人生で最高の5年間でした。最後に、これまで支えてくださった方々と長岡高専に感謝をこめて、ありがとうございました。



毎日が小旅行 中田 亘

母は言った。冗談じゃないわよ想定外も良いところよ。僕の退寮のことだ。

1、2年生の頃僕は比較的「優秀」な学生だった。定期試験前は勉強をし、良い成績を収めようと必死だった。それが大きく変わったのは3年時留学から帰ってきた時である。勉強に対して「意味」を求めるようになった。そこから僕は、やる気の出る科目をやり、他は及第点に届く程度の勉強を始めた。もちろん席次は落ちた。しかしながら後悔はあまり無い。むしろ、できた余裕を使って僕は様々なことに挑戦できた。3年次には、ロボコンで全国大会に出場し、起業家甲子園にも挑戦できた。4年次には、廃炉ロボコンで全国優勝した。やはり、自分の苦手なことよりも得意で意味を感じられる事の方がめり込むのが容易である。自分の得意を活かして様々なことに挑戦して良かったと思う。

さて、退寮のことだが、これは高専生活の中でも強く印象に残ると思う。通学時間は往復5分から往復4時間になった。48倍である。まさか最後の3か月、通生になるとは…これは自分の罪に他ならないので、日々電車の中で自分の罪を噛みしめたい。警告、ダメ絶対。

最後に、僕は高専が大好きだ。それは高専に素晴らしい仲間、素晴らしい先輩、素晴らしい後輩、素晴らしい先生が居るからだ。僕の挑戦はいつも高専という環境が後押ししてくれていた。ありがとうございました(90°礼)

スペースが余ったので、豆知識を披露します。

絵文字は英語でemoji (イ→モウノジー)



卒業おめでとう

3～5学年クラス担任 竹部 啓輔

皆さん卒業おめでとうございます。皆さんはこのクラスで、ある偉業を成し遂げましたよね。そうそれは、体育祭での綱引き3連覇ですね。3年生のときには、教職員チームの「レッドボンバーズ」に決勝で敗れましたが、4年生ではレッドボンバーズを破って悲願の優勝を果たしました。5年生でも優勝して総合2連覇、学生チーム3連覇を成し遂げました。

「どうしてそんなに強いのか？」と聞いた時、「コツは共有しています」との答え。綱引きの秘訣をみんなで共有して、力を合わせることができたからこそ得られた成果なのですね。個々が力を付けることは大事ですが、皆で協力し合うことも、とても大切なことだと思います。これからそれぞれの道に進んでいきます。ぜひそこでも、協力し合える仲間を作っていってください。困難に立ち向かわなければならぬとき、仲間がいればきっと大きな力になるはずです。助けてもらえばかりでなく、仲間の力にもなれるでしょう。

専攻科に進学する学生はあと2年間よろしくお祈りします。高専を後にする皆さん、機会があれば顔を見せに来てください。皆さんの今後の活躍を祈っています。



卒業おめでとう

2学年クラス担任 田中 聡

それにしても人生は思いがけないことの連続です。担任ローテーションの関係で、そもそも私はみなさんの担任になる予定のない教員でした。急に担任団に欠員が生じるようなことがなければ、みなさんとの今のような関係は生まれなかったのです。本当に不思議なものです。

思いがけないことではありましたが、みなさんとの出会いは、もう消えることのない歴史的事実となっています。ビッグバン以来の大きな歴史の流れで見れば（大袈裟ですが）、ほとんどゼロに近い確率で起こったこの出来事。この素晴らしい出会い。私は生涯大切にしたいと思っています。

予定通りであることが必ずしもいいとは限りません。想定外の事の中にも、素晴らしいことはいっぱいあるものです。そもそも人生は思い通りにはいかないもの。想定外のことに柔軟に対応し、その中で素敵なものを見出していく営みが人生そのものだと思います。みなさんとの思いがけない出会いの中で、そのことを改めて強く感じています。

みなさんの益々の活躍を祈っています。





感謝カンゲキ雨あ“らしこ” 五十嵐 優

卒業。それは別れであり、新たな門出への第一歩でもある。

思えば長かった。レポート地獄と寮の謎テンションにボコボコにされた1年生。生活に慣れ始めた2年生。化学インターハイでTVが来て浮かれた3年生。タイに行ったり、研修旅行だったりと動きまわった4年生。そして5年生。専攻科に合格した。再びタイに行った。熱で体育祭を休んだ。学祭演劇で5冠を達成。突然の退寮勧告。卒研が終わらないと嘆いた1月。今となっては全て輝かしい思い出。濃い一、と他人ごとのように思う。後悔や無念もある。が、それ以上に楽しかった。

そんな日々の中で色んな人に出会った。鼻くそを無言でつけてくる奴、くそ高い恵方巻を買わせる奴、「推し」への思いを永遠に語る奴、「Hi!! Guys!!」に笑顔と圧を感じる先生…。うん、濃い。やっぱり高専は凄い。

そんな濃かった皆に、今はとにかく「ありがとう」と伝えたい。一緒にバカなことをしてくれてありがとう。最後に、5年間通わせてくれた母親へ。本当にありがとう、あと2年頑張ります。



大人になりました 佐野 月

当時、15歳だった自分が20歳になった。高専生活最後の年なのだと一番強く感じた瞬間でした。

この5年間の中で一番変化があったのはクラスの雰囲気だと思います。学科ごとのクラスになったばかりの頃はみんなおとなしく、多くの先生に静かなクラスだと言われていました。各人の個性が強く、最初の頃は学校行事があるたびに意見がまとまらないことや参加率の低さから揉めることも多くありました。

そんなクラスでしたが、苦労しながら行事や日常の授業、課題をみんなで乗り越えてきたことにより、今では「そんなこともあったな」と笑いながら言える関係になりました。最初は大変でしたが、5年間楽しく、たくさん笑って過ごせたのはここで出会えたみんなのおかげです。ここでの思い出はかけがえのないものになったのではないかと思います。

最後に、先生方、先輩方、そして支えてくれた家族、こんな私たちがここまで成長できたのも皆さんのおかげです。5年間ありがとうございました。



卒業おめでとう 3～5学年クラス担任 小出 学

3年次にクラス担任となり特別活動、授業、実験等で毎日のように顔を合わせ、専門分野の勉強の悩みを相談したことやOB、OGを迎えてのこれからのキャリアを考えた進路指導を行なったことが、昨日のことに感じられます。これからの将来をどのように考えれば良いのか漠然とした悩みを抱える時期であり、その克服に努力した思い出が多く残っています。

その頃には、はるか遠い将来と考えていた卒業を無事迎えられ、今は充実した高専生活を送られた達成感とこれからの未来への期待感で心が満たされているのではないのでしょうか。

これからは、それぞれが異なった道を歩むことになり、様々な課題や問題に向き合わなければならないことがあるでしょう。

そのときには、高専での経験を生かして、自分だけの唯一無二の人生を進むことに自信をもって取り組んでください。

大切なことは、社会の状況がどれだけ大きく変化しようとも、自分自身の努力と周りの人との連携と協力だと思えます。自己研鑽を励むと共に、周りへの感謝の気持ちを忘れずに人生を歩んでいってください。



卒業おめでとうございます 2学年クラス担任 占部 昌蔵

卒業おめでとうございます。

皆さんが本校に入学してから早や5年が経とうとしています。5年前、妙高での合宿研修のバス車中での皆さんの元気の良さに驚いたことから始まり、遠足での調理時におけるチームワークの良さ、文化祭でのクラス企画の斬新さ等、行事ごとに驚いたり感心したりすることの連続でした。我々教員もできるだけ学生の自主性を尊重しようということでしたが、予想以上に自分たちで行動できました。

さて、この4月から、皆さんの多くは新しい環境に身を置くことでしょう。そこでは、今までの経験で得た価値観が通用しないことや理不尽なことに直面することがあると思います。そんな時は、前向きな気持ちを持って新たな価値観や理不尽なことを受け入れてみてください。それと、近い将来、豊かな心を持った「長岡高専卒の」技術者になっていることを希望します。

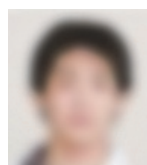
最後に、皆さんが幸多き人生を送られることを願っています。





時は金なり
石沢 公清

卒業を間近に控えて今考えてみると、自分の高専生活は時間に追われていたと思う。提出まであと何週間、何日、何時間、何分。このように時間に追われて過ごしているうちに、もう高専生活が終わろうとしている。時間が有限なのはわかっていても、行動を起こすまでが自分は遅いことが多々あった。そのせいで本来ならできることができず、時間を無駄にしていた。それがこの高専生活での反省である。だが、この反省を踏まえてこれからの自分を改めればいいので、無駄な時間もとらえ方によっては必要な時間だったのかもしれない。高専生活は時間にとらわれてはいたが、とても楽しかった。高専生活の5年間は人生における大きなターニングポイントだったと思う。これを読んで自分も時間を無駄にしていると思う皆様にはぜひ時間を大切にしてほしいと思う。



5年間を振り返って
杉澤 隼人

5年間を振り返って感じたことはとても長い学校生活だったと思います。

1年生の時は普通の高校と変わらないだろうと思って入学しましたが、担任の先生に「ここは高校ではなく、大学です。」と言われて驚いたことを今でも覚えています。5年間過ごしてみて確かに大学のようなものでした。

2年生では混合学級から学科ごとのクラスになり、専門科目も増えたので高専生活がようやくスタートしたなと思いました。3年生の時は大河津分水の見学と建設フェアがあり、様々な企業を知ることが出来ました。4年生の時はTOEICがあったため、クラスの人たちは勉強に一生懸命だったなと思います。それぞれが進路に向けて努力していました。5年生は最高学年のため、リーダーとして行事を仕切ることが多かったです。

5年間を通して仲間の大切さとそれぞれが信念をもって学校生活を送る大切さを知りました。私は就職をこの学校に入る前から決めていたのでそこまで迷うことがなかったのですが多くの人はどのような進路に向かおうか4年生の時に迷っていたようです。この学校に入る際は進路の見通しを持って入学することをお勧めします。



「知る」ことは楽しい
3～5学年クラス担任 田中 一浩

昨年末、海外から知人がやって来た。サウジアラビア出身である。アメリカの大学で機械工学を学んでいる。ビザ取得には時間がかかった。多くの書類が必要だった。

サウジアラビアってどこ？ 地図アプリで位置を確認した。アラビア語が母国語とのこと。Eテレのアラビア語講座と一緒に見たが、方言があるようで通じない。イスラム教のシーア派とのこと。サウジアラビアでは少数派のようだ。ハラルについても理解しているつもりであったが、なかなか奥が深い。温泉で日本の入浴法を教えた…等々。

わずか一か月であったが、彼の滞在を通して、初めて知ることが多かった。いくつになっても「知る」ことは楽しい。「日本人は優しい。おだやかな国だ。」と気に入ったようだ。今日、彼は帰国した。寂しくなった。



ご卒業おめでとうございます
2学年クラス担任 佐藤 秀一

皆さん、ご卒業おめでとうございます。
(この原稿を書いている時点で、まだ私とともに物理の醍醐味を味わっている諸君がいらっしゃるのがちょっと気になりますが…)

中学校卒業後の進路として、皆さんは長岡高専を選び、社会に出るまでの大事な時期を高専で過ごすという決断をされたわけですが、高専での学校生活はいかがでしたでしょうか？

学業にしても、課外活動にしても、同世代の一般高校に進んだ方々とは違った体験ができたことは確かだと思います。中には大変貴重な体験もあり、結果としていずれの皆さんも、同世代の中ではユニークな存在になったのではないかと思います。今後、高専を出てそれぞれの道に進まれるわけですが、どんな分野に進んでもそのユニークさが活かされる場面がきっとあるのだと思います。高専での体験を活かしつつ、存分にご活躍ください。そして、卒業してしばらくしたら、ぜひまた訪ねてきてください。近況やご活躍の様子など様々な話が聞けることを、今から楽しみにしています。





異世界転生生活

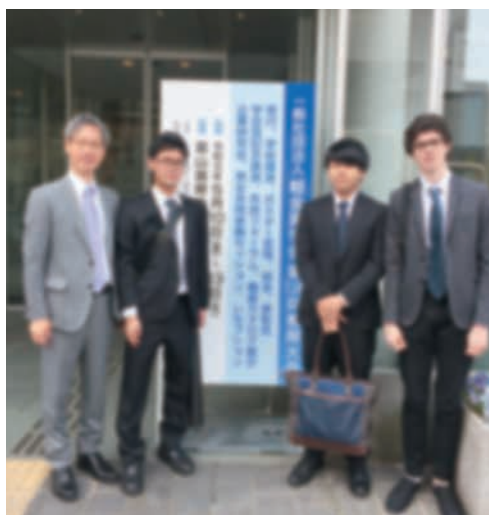
電子機械システム工学専攻（機械工学科出身）
片桐 理

長岡高専に入学してもう7年が経ちます。長いような短いような、今思えばとてもあつという間な感覚です。素晴らしい友と出会い、自分を成長させてくれた高専にとても感謝しています。

本科に入学したての頃は慣れない環境で課題に迫られる毎日でしたが、友人にも恵まれ充実した日々を送ることができました。5年生からは研究室に配属され本格的な研究生生活が始まりました。初めころは理解できなかったことも研究を進めていくうちに新しい発見がありモチベーションも上がっていきました。

専攻科入学後、1年生は講義と研究の並行でとても忙しい日々でした。しかし、英語力、プレゼン力を向上させることができました。2年生では研究に、より力を入れて学会発表にも参加させていただきました。学内発表とは違う緊張感でしたがとてもいい経験となりました。また、時期は異なりますが2人の留学生を研究室に招き、研究生生活を共に過ごしました。一緒に学会に参加したり、食事したり、色々なところに行ったりとたくさんの思い出を作ることができました。

最後になりますが、研究生生活で大変お世話になった青柳先生をはじめ教職員の皆さま、技術職員の皆さま、研究室のメンバー、ありがとうございました。これからは長岡高専の名を背負い、社会で活躍できるように努力し続けます。



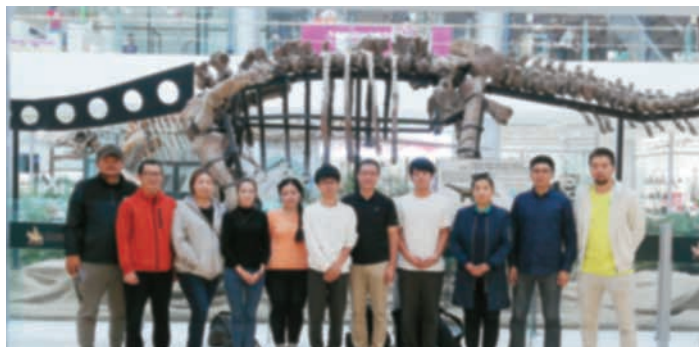
軽金属学会 第136回春季大会



圧倒的感謝っ…！

電子機械システム工学専攻（電気電子システム工学科出身）
山内 剛

7年間も高専に在学していたのだと再度考えると、少し驚きがあります。入学当初は5年間でも長いと考えていました。今は、在学中に「あれをもっとやっ



モンゴル3高専の先生方を対象とした
電気工事士の技術試験の指導のサポートに行ってきました。

ておけばよかった」など全く後悔が無いわけではないですが、おおむね充実した学生生活を送れたのではないかと考えています。すべては書ききれませんが、本科時代に印象的だったことは、2年時の物理で29点を取ってしまったこと、学生会の広報部としてホームページを担当させてもらったこと等です。専攻科では、研究、就活、海外へ3回も行かせて頂く機会を頂いたこと、留学生のTAを務めさせて頂いたこと等がありました。これらイベントの前、後もしくはその両方では非常に面倒なことが多かったこともありました。でもそれがあったからこそ、考えや行動を改めるきっかけとなり、自身が成長できたと感じています。これに関わっていただいた先生、友人や学生に感謝申し上げます。

「先生と学生との距離が近い」というのが高専のメリットであると考えているのですが、私の学科は特にこれが強いと感じています。相談事や何でもない話など、多くの先生と話すことができ、非常に勉強になり、色々なイベントに誘っていただいて楽しかったです。そんな環境から出るのは、惜しい気持ちもありますが、慣れた環境にずっと居ることは体に毒なので丁度良いタイミングだと言い聞かせて卒業します。

私と関わっていただいた友人、先生、学生とは別々の道を行くこととなりますが、他の形で再会できることを楽しみにしています。それでは、圧倒的な感謝と共に、一旦さようなら。



7年間の高専生活

電子機械システム工学専攻（電子制御工学科出身）
横山 和輝

高専に入学してから7年が経とうとしています。入学してからの本科時代では席次最下位、英語の偏差値23になるなど課題、考査に苦戦しつつも仲間にも恵まれ、充実した日々を過ごしていました。

専攻科入学後は前期始業式に、英語が苦手だったにもかかわらず、フィンランドに1年間留学することが決まり、フィンランドでは勉強したことのない経営学、電気自動車の設計、Unityを使用したゲームプログラミング、企業でのインターン、アルバイト、Facebookで契約したシェア

ハウスに居住、銀行口座開設などを経験していました。

また、日本では参加したことのなかったビジコンに出場し優勝することができ、起業のお誘いをしてもらうなどとても刺激的な1年でした。帰国してからは授業、研究を中心とした日々を過ごし忙しかったですが公私ともに不思議と充実しました。フィンランドで起業することはできませんでしたが今年度末に日本でサービスを立ち上げ、長岡市や複数の企業が協賛するイベントを開催します。在学中に貴重な経験のきっかけをくださった長岡高専の先生方、事務の方々には感謝しかありません。長岡6年、留学中の1年のサポートありがとうございました。



フィンランド留学



ゆずりは

物質工学専攻（物質工学科出身）
古田島 奈美

新しい葉が成長して、古い葉が落ちるそのさまが、代をゆずるように見えることから、そう呼ばれるようです。順番を問わず世代交代を続けていけることに、これ以上の幸せはありません。

本科の5年間、そして専攻科に進み、研究室に3年半、部活には7年間所属しました。たくさんの人にお世話になり、多くの事を学ばせていただきました。先に卒業していく先輩方の背中を見て、とても寂しくなった事を覚えています。あの頃の自分に、今でもOBは時々顔を出しに来てくれるし、東京でお茶してくれる先輩がいるという事を教えてあげたいです。

自分の卒業について書くために筆を取りましたが、心に刻まれた記憶を辿れば、そこにはいつも共に笑ってくれる人がいました。仲良くしてくれた同級生や部活の仲間には感謝しかありません。先輩達のように、私もなにか残せたでしょうか。振り返ると、先輩の微笑みも、後輩のあどけなさも、すべてが愛おしく感じられます。卒業してからも、この7年間で培ったものを生かして過ごせていけたらと思います。

この学校で、傍で私を見守ってくれた先生をはじめ、多くの人達に、心からありがとうと伝えたいです。



学園祭露天にて



本科&専攻科生活を振り返って

環境都市工学専攻（環境都市工学科出身）
佐藤 剛

長いようであつという間だった7年の学生生活が終わろうとしています。

私は7年前「本科卒業後は就職しよう」と思案していたことを覚えています。それがまさか専攻科に進学して、この「本科&専攻科生活を振り返って」を書いているとは当時は思いもしませんでした。

振り返ると、高専に入学したときの私は「人前での発表スキル」「独創性」の劣る勉強嫌いの酷い生徒だったと思います。じゃあ今は違うのか？ と聞かれると回答に困ってしまいますが、7年間でそれらを大分克服できたと自負しており、それが高専を選んで良かったと思える一番のポイントです。

専攻科では研究を発表する機会が増えたり、他学科との合同授業があったりと本科の頃とは違ったスタイルで常に新鮮に、楽しく学ぶことができました。

その他にも様々な活動や課題に挑戦する中で得られた経験は何ものにも代え難いもので、今後の自分を支えてくれるような気がしています。

私はあと2年間学生として過ごしますが、今まで学べたこと、これからも学び続けられることに感謝しながら日々精進したいと思います。

最後になりますが7年間支えてくれた家族、高専でお世話になった先生方、本当にありがとうございました。



仮囲いデザインアイデアコンテストにて発表後の一校



大草原を征く

電気電子システム工学科／国籍：モンゴル

ダグワドルジ バザルサダ(バズラー)



私はモンゴル出身のバズラーです。今思うと長岡高専での3年間はあっという間のように感じます。最初高専に来たばかりの頃は分からないことだらけで本当に心配でした。そんな時にいつも応援してくれる担任の先生を始めチューターや学科の優しく素晴らしい先生方がいたおかげで私はここまでやって来られたと思います。本高専に来て一番良かったことはやっぱり困った時に私の話を聞いて、肩を叩いてくれる仲間たちが出来たことだと思います。さらに、留学生に向けた色々な活動や旅行などを多く行ってくれたおかげで日本の文化や歴史について知ることができたのも最高でした。いい思い出をいっぱい作れたこの3年間に忘れずに、高専で学んだことを活かしてこれからの道で頑張りたいと思います。長岡高専の皆様から感謝しています。またお会いできるように。



kosen memories

電気電子システム工学科／国籍：ベトナム

レー フーン アン (アン)



3年前、私は家族も友達もいない日本にやってきました。お金もあまりありませんでした。現在、お金は変わらずありませんが、自分の世界が広がった感じがします。高専に入った時は、日本人になじめるか、日本語の授業を理解できるかななどの色々な心配を持っていましたが、とても楽しい学校生活が送れました。

担任先生の矢野先生はとても優しく、面白い人だと思います。学校の遠足での準備で、私と他の2人クラスメートを連れて、にんにく1パックのためにかっこいオープンカーを走らせてくれたのはいい思い出です。また、面白い学習チューターに出会いました。彼女は6歳下で、自らを日本語が下手な日本人だと言っていたのですが、私のお母さんのような人です。「アンちゃん、今日集まりがあるよ、メールを見た?」、「明日のテストの時間を覚えている? 寝坊しないでね。」、「アンちゃん、落ち着いて…」とよく言わ

れました。また、彼女とは他の日本人より会話がスムーズでした。彼女の語彙力があまりなかったからこそ、私の話をより理解できたんだと思います。最後に、研究室のメンバーや島宗先生には、チームワークやあきらめない心の大切さを教えてもらいました。感謝の気持ちでいっぱいです。



さらば高志台

電子制御工学科／国籍：タイ

チンパリー ナンタポン (プライ)



僕は長岡に来て最初に思ったことは、ご飯がとてもおいしいということでした。また周りの方々がフレンドリーに接してくれました。だから、長岡は雪が多くて大変そうだけどもいい場所だなと感じました。

長岡高専に編入して、最初のうちは日本語でうまくコミュニケーションが取れずに苦労しました。でも、留学生チューターや先生方のおかげで、なんとか順調に進級してくることができました。助けていただきました皆様、本当にありがとうございました。

僕はタイムスケジュールの管理がうまくできず、課題の期限を守れなかったり集合時間に遅れたりとまわりに迷惑をかけてしまうことがありました。その際には先生方からご指導をたくさんいただきました。そのことも、今になってみるといい思い出です。

長岡高専で、日本での生活や学習の基礎を養えたと感じています。今後、進学先でもこの長岡高専での経験を活かして頑張っていきたいと思います。

3年間本当にありがとうございました。



夢への一步

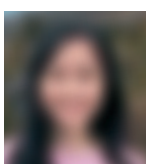
物質工学科／国籍：モンゴル

バザラグチャー ムンフデルゲル(ムーデ)



高専での3年間は私にとって目覚まし時計のようでした。高専に来てばかりの頃はワンステップ前後全てが新しく、慣れにくかったことが多かったです。授業や試験を自分にとって外国語の日本語で受けるのをはじめ、日本、特に高専独特の習慣やマナーなどを学ぶまで大変でした。しかし、先輩、クラスメート、先生たちのおかげで高専の3年間で過ごすことができ、さらに無事に大学へ編入することができました。助けてくれたクラスメート、先生たち、声をかけ話してくれた皆様、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで高専生でいる間に日本語だけではなく文化や技術的知識を得ることができ、充実した留学生活を送ることができたと思います。これから、高専で得た知識を将来大学でも生かしていきたいと思っています。そして、いつかみんなが助けてくれたように後輩や助けが必要な人に夢への階段になってあげたいと思います。

最後に、担任の小出先生、研究指導教員の河本先生、留学生日本語の松田先生、また地球ラボの皆さん3年間お世話になりました。心から深く感謝いたしております。



一生の宝物

環境都市工学科／国籍：マレーシア

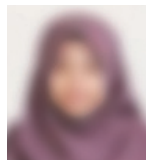


リュウ プイ フォン（リュウ）

日本で生活することは私にとってただの夢でした。中学校からアニメを通して、日本の文化や人に興味を持ち、ずっと憧れている日本に行きたいという願いがありました。17歳のその年、まさかのことが起きました。そうです、日本に来られる機会を掴みました。私の家庭状況では、日本へ旅することさえ難しいことでした。奨学金がもらえることは私の夢をかなえてくれました。そんな願いが叶い、私は日本にきました。そして、この三年間、今まで体験したことのない経験ができました。春には桜、秋には紅葉、冬には雪、あとスノーボードです。一年中夏のマレーシア人にとっては海外に行かないと見れない風景です。そして、学校生活も楽しかったです。新しい友達もできて、嬉しく思います。大切な思い出がたくさんで

きました。日本にいる時間が私の一生の宝物になるでしょう。

最後に、いつも面倒を見てくださった担任の先生をはじめ、荒木先生や研究室の先輩たち、チューターと私に話しかけてくれるみんな。どうもありがとうございました。これからは長岡を離れますが、みんなのことは忘れません。



心

環境都市工学科／国籍：マレーシア



シティ アフィファ ビンティ アズミ(アフィファ)

5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先生方、今日まで本当にありがとうございます。長岡高専の卒業生であることは誇りに思います。本校は個性豊かな先生達がいいます。たくさんの事を教えていただきまして誠に感謝しています。未熟な私ですので、この先もお世話になることもあるかもしれません。その時は卒業後でもまたご指導のほどよろしく願いいたします。この先の期待と、またどんなことがあるのかと言う不安の中で、この学校のことを忘れることなく、3年間ここに学んだことを忘れないで成長していきたいです。

最後に、校長先生をはじめ、担任の先生、諸先生方、そしてクラスメイト達、先輩達、留学生達本当にお世話になりました。私は絶対に皆さんから受け取った「心」を一生忘れません。



さよなら高志台

退職する教職員



定年にあたり

一般教育科

松永 茂樹

平成11年4月に県立高校から長岡高専に異動し、以来20年間本校の一般教育科で物理の授業を担当してきました。本校は5年一貫教育なので、授業の進め方や学生の指導の在り方などの様々な面で長期的な視点で教育活動を行う必要があります。3年間で完結させようとする高等学校とはその点が大いに異なり、感覚をつかむまで暫く掛かりました。在任中の20年の間には中越地震など本当に様々なことがありました。今では校舎もきれいに改修され、私が着任した頃とは学校の雰囲気も変わり、まったく別の学校のようにです。本校の学生は目的を持って入学している人が多く、真剣に授業に取

り組む様子などにそれが表れており、本校の良い点だと思います。高専では到達度試験やCBT試験も始まり、物理の学力向上の指導に以前高等学校で大学進学のための学習指導を行った経験を生かすことができて幸いでした。一方、近年は授業だけでなく学校からの要請で小学校や公民館などで出前授業も行いましたが、久しぶりに実験をしながら楽しく理科を教える喜びを味わうことができました。このことが、自分の授業を振り返って、若い学生に対する理科教育は本来どうあるべきだろうかと私自身が改めて考えるきっかけにもなりました。私はこの3月で長岡高専を退職しますが、若い人たちに学ぶ喜びを与えることができるような指導を目指して今後も研鑽を続けたいと思います。末筆となりましたが、これまで様々な面でお世話になった同僚教員、および事務の皆様にお礼を申し上げ感謝の言葉とさせていただきます。



定年を迎えて

物質工学科

坂井 俊彦

平成9年4月から勤務を始めて、令和2年3月で23年になります。

振り返りますと、授業については基礎から理解してもらえる授業、学生が興味を持ち、自らの力で学んでもらえる授業を、と思い、幾つかの試みをしてきました。多少なりとも学生に認めてもらえるような授業ができていたとしたら幸いです。

校務については種々の委員、広報戦略室、学科長、寮務主事、学生主事など、それぞれ精一杯務めさせていただきました。特に寮務主事、学生主事の際には、積み残しの課題もありましたが、幾つかの課題については改善できたかなと思っています。その際、主事補と委員の先生方、事務部の方には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

研究については興味ある仕事にじっくり取り組もうと、新しいテーマについて研究を開始しましたが、なかなか思うようには進まず、不完全燃焼となってしまいました。しかし研究活動の中では2回の短期在外研究が心に残っています。特にイタリアへの在外研究の際にはグレッツェルセル（色素増感太陽電池）の開発者であるグレッツェル先生をローザンヌに訪ねて直接お会いし、研究室を見学させていただいたことや、パチカンのヨハネ・パウロ2世が逝去され、ローマ中がざわついていたことが思い出されます。

長い間お世話になりました。全ての皆様に心からお礼申し上げます。

3月末で定年退職となりますが、来年度も再雇用にて勤務させていただく予定ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になってしまいましたが、長岡高専と皆様の益々のご発展をお祈りいたします。



旅の終わりに

事務部長

大澤 和美

卒業生・修了生の皆様、卒業・修了おめでとうございます。また、保護者の皆様及び御家族の皆様おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。卒業・修了後も大いなる飛躍を期待しております。

長岡高専の学生のアクティビティの高さには感謝でいっぱいです。2年前の高専ロボコンでは30回の大会で初の全国大会2チーム出場、また、ロボカップ世界大会での優勝、昨年のディープラーニングコンテストでの優勝、体育大会での素晴らしい活躍等々輝かしい成績を収めてくれ学校の名誉を大きく高めていただきました。

さて、私も3年前に長岡工業高等専門学校に赴任し、この3月で定年退職となります。皆様には大変お世話になり感謝しております。昭和57年10月に筑波大学に採用され、宮城高専と仙台電波高専の統合（仙台高専）、筑波技術大学、信州大学で、群馬大学と学生・教務系の教育改革の業務に従事してきました。ここまで無事に仕事できたのも、ひとえに上司、先輩、同僚等の力があったからこそであり感謝しております。

長岡高専においても、竹茂校長先生始め皆様方のご協力のもと行ってきた長岡技術科学大学との連携教育プログラム、トゥルク応用科学大学（フィンランド）とのダブルディグリープログラム及びグローバルエンジニアプログラム等々のさらなる飛躍を期待しております。

最後に、卒業生・修了生、ご家族の方々、後援会、同窓会、技術協力会及び教職員並びに様々な長岡高専を支えてくださった皆様に謹んで感謝申し上げます。

ありがとうございました。

長部先生を悼んで

電気電子システム工学科 樺澤 辰也

電気電子システム工学科の長部恵一先生におかれましては、1月16日に急逝されました。当日は専攻科の特別研究発表会があり、先生もお元気に参加されていました。それだけに、あまりの突然の先生の訃報に本当に驚き深い悲しみを感じています。

学校において長部先生は、授業はもちろんのこと、研究ではレーザーを使ったホログラムの材料開発に熱心に取り組まれ、研究室の学生たちを懇切丁寧に指導



されていました。クラブ活動では、プラスバンド部やバレーボール部の顧問として優しい笑顔で指導されていました。それらの学生が今や社会で立派に活躍していることは、ひとえに先生のご指導のたまものであります。

このように真摯なお人柄であり、学生の誰からも好かれた長部先生を失うことは、我々にとって大変つらいことであります。また、ご遺族の方々の悲しみは、いかばかりかとお察し申しあげ、心より哀惜の意を表します。

長部恵一先生、本校でのご活躍ありがとうございました。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



卒業生・修了生表彰 進路状況

卒業生・修了生表彰

■ 独立行政法人国立高等専門学校 機構学生表彰

理事長特別表彰

電子制御工学科	青木	尚登
物質工学科（4年）	松崎	りさ
電子機械システム工学専攻	大谷	俊介
電子機械システム工学専攻	樋口	翔太
電子機械システム工学専攻	齋藤	祐功

■ 長岡高専の学則に定める賞

特別表彰

電子制御工学科	石橋	和貴
電子機械システム工学専攻	山内	剛
電子機械システム工学専攻	齋藤	祐功

電子機械システム工学専攻	樋口	翔太
電子機械システム工学専攻	大谷	俊介
環境都市工学専攻	渡邊	隼平

功労賞

電子制御工学科	酒井	龍一
電気電子システム工学科	酒井	陽太
機械工学科	石川	岳斗
環境都市工学科	板垣	明莉

精励賞

電子制御工学科	木花	隼
環境都市工学科	稲田	晃大

皆勤賞

機械工学科	江添	航
-------	----	---

機械工学科	小林	青葉
機械工学科	峠	優太
機械工学科	長島	春澄
機械工学科	西片	直也
電子制御工学科	片桐	慧
電子制御工学科	木花	隼
物質工学科	五十嵐	優
物質工学科	大川	菜里
物質工学科	鈴木	統大
物質工学科	丸田	航大
環境都市工学科	稲田	晃大
環境都市工学科	大井	美穂
環境都市工学科	齋藤	充
環境都市工学科	武樋	力

■ 各種学会賞等

電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞	電気電子システム工学科	田中	俊祐
4th STI-Gigaku2019 Best Poster Award	電子制御工学科	中田	亘
IEEE Shin-etsu Young Researcher Paper Award	電子制御工学科	チンパリー	ナントポン
4th STI-Gigaku2019 Best Poster Award by sumitomo Riko Company Limited	物質工学科	鈴木	統大
大光銀行 地域創生「たいこうビジネスプランコンテスト2019」特別賞	物質工学科	荒木	萌
電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞	電子機械システム工学専攻	小黒	司友
日本コンクリート工学会 コンクリート工学年次大会年次論文 奨励賞	環境都市工学専攻	渡邊	隼平
日本機械学会 畠山賞	機械工学科	小熊	一矢
全国高専土木工学会 近藤賞	環境都市工学科	稲田	晃大
日本化学会関東支部 支部長賞	物質工学科	五十嵐	優

■ 同窓会長賞

アントレプレナークラブ

電子制御工学科	青木	尚登
電子機械システム工学専攻	大谷	俊介
電子機械システム工学専攻	樋口	翔太
電子機械システム工学専攻	齋藤	祐功

ロボティクス部

電子制御工学科	酒井	龍一
電子制御工学科	石橋	和貴
電気電子システム工学科	酒井	陽太
機械工学科	竹内系太郎	
電子制御工学科	中田	亘

バスケットボール部

電気電子システム工学科	石田	真大
環境都市工学科	小海	元暉
電気電子システム工学科 （マネージャ）	瀧澤	舞

柔道部

環境都市工学科	阿部	圭太
環境都市工学科	齋藤	充
環境都市工学科	武樋	力
電子制御工学科	関	凌大
電子制御工学科	西方	敬太

水泳部

電気電子システム工学科	山際	大雅
-------------	----	----

陸上競技部

電気電子システム工学科	森	菜々子
-------------	---	-----

硬式野球部

機械工学科	宮崎	凌
電気電子システム工学科	高頭	佑輔
電子制御工学科	青木	尚登
環境都市工学科	稲川	廉
環境都市工学科	小柳	颯輝

進路状況（令和2年3月現在）

学科

学 科	区 分	卒業者数	進学者数	就職者数			研究生等
				県 内	県 外		
機械工学科		35	22	12	5	7	1
電気電子システム工学科		40	22	18	6	12	0
電子制御工学科		38	26	9	6	3	3
物質工学科		34	24	9	2	7	1
環境都市工学科		40	28	12	8	4	0
計		187	122	60	27	33	5

専攻科

専 攻	区 分	修了者数	進学者数	就職者数			研究生等
				県 内	県 外		
電子機械システム工学専攻		20	9	11	3	8	0
物質工学専攻		6	0	6	1	5	0
環境都市工学専攻		9	2	7	0	7	0
計		35	11	24	4	20	0



PICK UP 2019

T O P I C S

1 全国高専ディープラーニングコンテスト(DCON2019) で長岡高専2チームが最優秀賞・企業賞を獲得

4月22日から24日にかけてDCON2019の本選が行われました。DCON2019は日本ディープラーニング協会(JDLA)と日本経済新聞社の共催による今回が初開催のコンテストで、ディープラーニングとハードウェアを組み合わせた作品によるビジネスモデルを提案し、その事業性を競います。2月に行われた予選には全国の高専から18チームのエントリーがあり、本校からエントリーした2チーム含め8チームが本選出場に選抜されました。4月22日・23日の2日間は、作品展示と技術評価が行われました。最終日となる24日には各チームがプレゼンテーションを行った結果、長岡高専プレラボチームが最優秀賞(JDLA若手奨励賞)および企業賞(コニカミノルタ賞)を獲得しました。さらに長岡高専視覚情報処理研究室チームも企業賞(HEROZ賞)を受賞しました。

2 高田孝次元校長、令和元年春の叙勲にて瑞宝中綬章を受章

5月21日付けで政府が発表した令和元年春の叙勲において、本校の高田孝次元校長(名誉教授)が、瑞宝中綬章を受章しました。勲章伝達式は、5月28日に国立劇場にて行われました。高田孝次元校長は、長岡技術科学大学工学部で長い間研究者としてご活躍されたのち、平成15年の4月から平成23年の3月末までの8年間、本校校長をお務めになられました。その功績が内閣府から認められ、「瑞宝中綬章」を受賞されました。高田元校長の今後の一層のご健康とご活躍を一同祈念しております。

3 本校学生、孫正義育英財団の財団生に認定(2019.07.03)

本校電子機械システム工学専攻2年の樋口翔太さんが、約20倍の高倍率の選考をくぐり抜け、公益財団法人 孫正義育英財団の財団生に認定されました。今後は同財団の支援を受けながら、ロボティクス・AIを駆使した自動化技術と、異分野への応用について研究していきたいということです。

4 インターハイ 水泳飛び込み競技で入賞

8月17～20日に沖縄県那覇市にある奥武山総合運動場で開催されたインターハイ(全国高等学校総合体育大会)に本校の櫻井優さん(Ci3)が出場し、高飛び込み決勝で5位入賞となり、3年連続出場で悲願の初入賞を果たしました。

5 フラー株式会社によるアプリ開発の夏季集中講義を実施

本校と包括的連携協定を締結しているフラー株式会社と

協働で実施しているアプリ開発講義の夏期集中講義が9月4日から9月6日の3日間にかけて実施されました。開発と入門書の作成を並行して行ったことで、学生たち自身で一つ一つの作業の意味を理解しながら進められ、大変実りのある集中講義となりました。

6 国際協力機構(JICA)と連携協定締結(2019.10.10)

地域産業の国際展開などを視野に参加した「JICA-高専オープンイノベーションチャレンジ事業」で、本校学生が提案したケニア企業の課題解決策が採択され、学生たちがケニアの現地で課題解決に取り組みました。この活動を受け、本校は開発途上国・地域への支援や国際協力事業の質的向上に寄与するため、JICAと協定を結び、高専では全国で初めて「JICA-高専イノベーションプラットフォーム」を設置・参加することとなりました。この協定には、主に長岡地域の製造業で組織される長岡産業活性化協会NAZEも加わり、本校と連携して課題解決に取り組んでいくこととなりました。

7 『えちご想発xTECH』(ICTビジネスアイデアコンテスト2019 in 長岡)で本校学生がグランプリを受賞

11月24日に、長岡市のアオーレ長岡を会場として上記コンテストの最終審査発表会が開催され、本校専攻科に所属する学生2名のチーム「aqupo(アクポ)」が見事にグランプリ(総務省信越総合通信局長賞)に輝きました。

8 「対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 ASEAN」事業によるタイ高校生訪問団が来校

11月29日、「対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 ASEAN」事業に基づき、タイ王国の高校生17名が長岡高専を訪問しました。今回はタイのチュラポーン王女サイエンスハイスクールなどを中心に、タイのトップレベルの高校に在籍する高校生達が参加し、新潟県を中心に10日間ほどの研修プログラムに参加しており、長岡高専への訪問もその一環として行なわれました。

9 AIR特別講演会を実施

12月11日、慶應義塾大学の萬礼応特任助教をお招きし「人と調和・協働するための知能ロボット技術」と題してご講演いただきました。本講演会はAI・IoT・RTの次世代技術者を育成するAIR Techプログラムの一環で、日本機械学会北陸信越支部の主催事業として実施しました。AI×ロボット技術をキーワードに、ロボットが人に寄り添い、人の動きに調和しながら安全に移動するための技術、および理論的背景をご説明いただきました。